

入田小学校 「学力向上実行プラン」

令和7年度学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ・書く場面、他者の意見を取り入れ自分の考えを深める場面
 - ・学びを振り返る場面の工夫・発問の工夫
- 自主学習ノートの工夫による家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 3年担任	委員 校長 5年担任 6年担任 学級担任補助	教頭・4年担任 1年担任 2年担任 特別支援学級担任 養護教諭
-----------------	------------------------------	--

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書き、四則計算等の基礎的な力は概ね定着してきている。 ●個人差が大きく、基礎的事項が十分身につけていない児童もいる。 ●文章を正確に読み取る力や書く力が弱い児童もいる。 ●文章の構成を考えたり、推敲したりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、様々な学習場面で活かすことができる。 ・幅広い知識を自ら求める態度をもっている。 ・相手意識をもって文章を考えたり、書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のスタディタイムを有効に活用し、漢字、読解、作文、新聞の要約をする。また、算数の応用問題や文章問題等の力をつけるための学習を継続して取り組ませる。 ・優れた日記や作文、読書感想文を読んだり、掲示をしたりして、児童に紹介をする。 ・デジタル教材や辞書を活用し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディタイムや宿題に、長文などの発展的な問題に取り組ませる。 ・基礎的な知識・技能を活用し、応用問題や文章問題に取り組ませる。 ・優れた文章を紹介するだけでなく、試写させたり文章を基に書いたりする。 ・デジタル教材や辞書を活用させ、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディタイムを活用し、それぞれの課題に取り組むことができた。 ・国語の教科書に載っていない文章をもとにした読解問題に取り組んだ。 ・デジタル教材やタブレットを活用することができた。 ・全ての児童が国算社理の単元末テストで知識技能の項目で85%が達成できた。 ・教科の系統性や他教科とのつながりに気づく児童が増えているが、活用までには至っていない。 ・文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書やタブレットでの検索習慣を身につける。 ・学習した漢字を用いて日記や作文を書かせ、文章を書く機会を増やす。 ・読書の習慣をさらに定着させる。 ・大勢の前でも伝わる声で話せるようにさせる。 ・推敲の仕方を共有しておく。 ・応用問題を授業の最後や宿題に出す。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見をしっかりと聞くことができる児童が多い。また、自分の考えを積極的に発表できる児童が増えてきている。 ●場に応じて臨機応変に自分の考えを表現する力はまだ十分でない。 ●いくつかの資料から情報を選択し、筋道を立てて文章で表現したり、解決したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、根拠や理由を明らかにしながら表現することができる。 ・他者の意見を取り入れながら、根拠をもとに多面的・多角的な自分の意見を持てる。 ・資料からわかることを根拠にして、考えを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードや付箋、タブレット等を用いて、考えや思いを述べたりする場面を増やす。 ・他者の考えを踏まえ、自分の考えを付け加えて話し合う活動を設定する。 ・多面的・多角的な考えが持てるように発問を工夫する。 ・視点を提示して、振り返ることができるようにする。 ・新聞からキーワードを見つける方法に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードや付箋、タブレット等を用いて考えや思いを書くことができ、それを述べるようにする。 ・他者の考えとの共通点や相違点に着目し話し合いを進めることを促す。 ・校内研修や研究授業を通し、学習者の思考を促す発問を工夫する。 ・話型を示し、文章で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話型を示すことで、すべての児童が考えの根拠や理由を表現することができた。 ・他者の意見を取り入れ、自分の意見をより詳しく表現できるようになってきた。考えを深めるまでには、至っていない。 ・説明文を要約し、それを黒板やタブレットに書かせ、自分と他者の意見を比較させる等の活動を行った。 ・他者の意見をしっかりと聞くことはできたが、自分の意見を伝えることが苦手な児童がいる。 ・相手の意見に着目して、話し合うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのモデルを示し、児童自身が振り返る時間を設ける。 ・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、伝え合う機会を増やす。 ・話し合い活動の練習をさせる。 ・代表委員会を活用し、学級以外でも伝え合う場面を増やす。 ・例を提示しながら、発表や意見の書き方の指導をしていく。 ・児童のつぶやきをひろって、話を広げていくような声かけを行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた課題に、まじめに取り組むことができる。 ●自ら課題を見つけ、主体的に取り組むことに課題がある。 ●不得意な学習内容に対して、計画的に取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた学習や自主学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題の解決に生かすことができる。 ・既習の学習を生かし、他教科の学習や生活を関連づけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導を徹底するとともに、ノートには、自分の考えや気になること、先生の話で聞いたことなどを書く習慣を身につけさせる。 ・タブレット学習を活用して、主体的な学習への意欲を高めさせる。 ・各教科の関連事項を積極的に活用する。 ・自主勉強ノートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な事柄を学習課題と結びつけることで、学習への意欲を高める。 ・ノート指導を徹底するとともに、ノートには考えや疑問に思ったことを書き加える習慣をつける。 ・振り返りを書く時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習等で体験したことが、学びを深めていた。 ・自主勉強ノートを活用していた。 ・課題に真面目に取り組む態度は継続されているが、主体的に取り組む態度が十分育成されたとは言えない。 ・疑問や興味のあることをタブレット等で調べることができた。しかし学習への意欲につなげることができなかった。 ・自分で考えようとせず、すぐ教師に聞いてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や地域教材を活用した単元計画を行う。 ・ノート指導や振り返りの指導を継続して行う。 ・読み聞かせをしたり「読書タイム」を設定したりする。 ・地道に努力をしていることを認め、全体に広がるようにする。 ・教科書以外の内容も調べ興味をもたせる。

令和7年度 学力向上ロードマップ

